



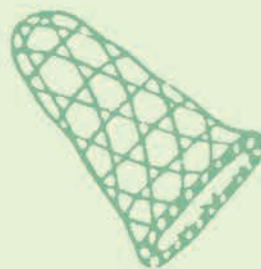
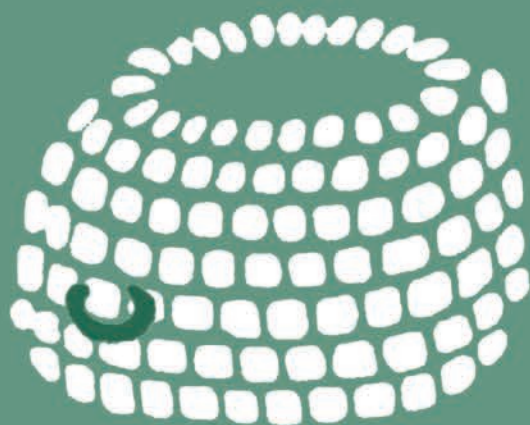
神奈川大学 日本常民文化研究所

2021—2023

創立100周年記念号



INSTITUTE FOR THE STUDY
OF JAPANESE FOLK CULTURE



日本常民文化研究所 創立100周年

1921年2月2日、本研究所の創立者である渋谷敬三は、鈴木醇、宮本璋等6名とともに東京本郷において、前身となるアチックミュージアムソサエティのはじめての会合を開きました。2021年の同日は、本研究所の100回目の誕生日となりました。

日本常民文化研究所は、100周年という節目となる2021年からの5年間で、「日本常民文化研究所100周年記念事業」年間とし、関連シンポジウムや記念出版等の記念事業を予定しています。



アチック・ミュージアム内部 目録番号:河1-6-14

Contents

日本常民文化研究所	1
組織／活動の概要／他機関との連携	
所員紹介／創立100周年記念	
調査と研究	7
目的と概要／共同研究の成果	
日本常民文化研究所研究会	
所蔵資料・図書	14
所蔵資料／所蔵資料検索／所蔵図書	
民具マンスリー	18
刊行物	18
歴史と民俗／叢書・報告書・目録ほか	
講座	22
常民文化研究講座／古文書修復実習／民具を語る	
展示	23
国際常民文化研究機構	24
利用案内	25

日本常民文化研究所 公式 SNS 開設

● Facebook

<https://www.facebook.com/jomin.kanagawa.univ/>

● Twitter

https://twitter.com/jomin_official/

● YouTube

<https://www.youtube.com/channel/UCbYukzC1LpryLpOiHnn07mg/>

最新情報は公式 Web サイトへ

● 神奈川大学日本常民文化研究所 Web サイト

<http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/>

● 神奈川大学デジタルアーカイブ

<https://www.kanagawa-u.ac.jp/research/digitalarchive/>

※詳細は25ページをご覧ください。

ご挨拶

常民研、次の100年に向けて

1921年にアチック・ミュージアムとして誕生して以来、日本常民文化研究所が歩んできた100年の道のりは平坦ではない。1939年には所蔵していた民具コレクションを保谷の民族学博物館に移管するなど当初有していたアチック自体の博物館機能は大きく減退した。その一方、1981年からは神奈川大学の付置研究所として運営されながら、2008年にはCOEプログラムの後継組織として非文字資料研究センターを常民研の内部に立ち上げ、また2009年には常民研を母体に国際常民文化研究機構を組織して共同研究・共同利用の拠点化が図られた。

そうした100年が終わり、現在、次の100年に向けて常民研は将来構想を策定し、具体的な活動を開始している。一つは、国際常民文化研究機構が担ってきた共同研究・共同利用の拠点としての機能を充実することである。国際的視野をもって常民文化を研究する機関として、積極的に共同研究を組織し、所蔵資料の共同利用を図る。そのため、現在は、常民研における共同研究を、先端的・学際的な目的設定のもと全所的な取り組みにより推進する基幹共同研究、積極的に所蔵資料の活用を図る基盤共同研究、研究者個人の関心に出発する個別共同研究の3つに分類して共同研究を推進している。

そして、もう一つは、博物館機能の強化である。大学博物館として相当施設化を図り、新たな博物館型研究統合を目指す。共同研究・共同利用による研究成果を発信する場として、また大学教育および学芸員養成の現場において常民研を活用する。そうした、博物館機能を有するからこそ可能となる研究のあり方を博物館型研究統合と位置づけ推進するものである。

神奈川大学日本常民文化研究所

所長 安室 知



❖ 日本常民文化研究所は、日本民衆の生活・文化・歴史を多様な領域において調査・研究する、神奈川大学付置の学際的研究機関です。1921年に経済人・渋沢敬三が創設した“アチックミュージアムソサエティ”を前身として、日本各地の生活文化、中でも民具や水産史の研究を中心に活動を進め、戦前・戦後の日本常民文化研究所を経て神奈川大学に招致され、2021年で創立100周年をむかえました。渋沢敬三の「ハーモニアスデヴェロップメント」の精神を受け継ぎ、開かれた研究所として学内外の研究者にも研究交流の機会を提供すると同時に、これらの諸分野に関わる教育活動も行っています。

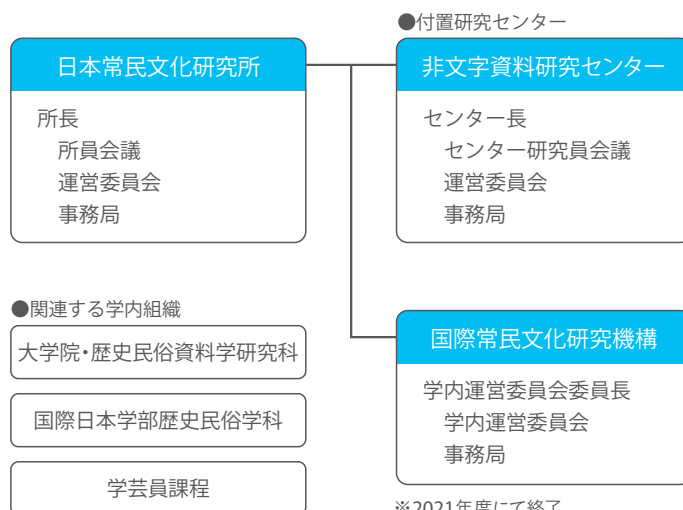


渋沢敬三と アチック・ミュージアム



渋沢敬三(1896-1963)は、実業家である渋沢栄一の孫であり第16代日本銀行総裁、幣原内閣大蔵大臣を務めました。1921年に物置小屋の屋根裏に「アチック・ミュージアム(屋根裏博物館)」をつくり、玩具、民具などの収集・展示を開始。その後、多くの同人や研究員により民具研究、地域研究、水産史研究などの分野も推し進められ、敬三が提唱した「ハーモニアスデヴェロップメント」の精神を受け継ぎ、現在では本研究所にて活動が継続されています。

組織



2020年4月開設 国際日本学部歴史民俗学科

本研究所の伝統にもとづき大学院歴史民俗資料学研究科の体系的なプログラムにもつながる国際日本学部歴史民俗学科が誕生。日本の古代から現代まで時代の変化を探究する「歴史」、各地域の信仰伝承や儀礼伝承などを、フィールドワークを通して探究する「民俗」、それら文化資源を地域おこしや観光に活用する「文化創生」の各分野から学びを深めます。

2021年4月には新キャンパス「みなとみらいキャンパス」が開設しました。



みなとみらいキャンパス



図書館へつながるナレッジコア

大学院・学芸員課程への協力

● 大学院歴史民俗資料学研究科

神奈川大学では歴史・民俗資料学の研究者を養成するために、1993年に本研究所を母体とする独立大学院「歴史民俗資料学研究科」、1995年に博士後期課程を開設しました。教育・研究活動は本研究所および非文字資料研究センターと密接に連携して行われ、学生は研究会や資料調査への参加の機会も多く、所蔵資料等の利用が可能です。

● 学芸員課程

本研究所は、1985年より神奈川大学に開設された学芸員課程に協力しています。資料の収集、整理、調査研究、展示に関する基礎実習を基盤に、博物館実習により民具および文献資料(古文書)を扱う学芸員の養成を目指します。学内の学生のみならず、すでに博物館、資料館などで勤務する方々にも聴講を認めています。

1. 研究成果の公開



第23回 常民文化研究講座・国際研究フォーラム(2019年12月)

所員を中心とした調査研究の成果は、各種刊行物(論集・叢書・調査目録・調査報告等)・講座・研究会ほかのかたちで、広く公開しています。Web サイトでも各種データベースや新しい情報などを随時公開しています。

2. 資料の収集と研究・公開

フィールド調査において調査対象とした資史料を撮影等の手段によって収集し、必要に応じて整理・目録化を行っています。資料所蔵者の方々



「七島文庫」写真撮影の様子(2019年8月)

のご理解・ご協力のもとに、当該資料を確実に後世に伝え、将来の研究において有効に活用するための基盤を作る作業です。また、研究所で所蔵・管理している資料群の整理・分析も順次進めています。

3. 研究会活動



第120回日本常民文化研究所研究会(2019年9月)

1983年以来、所員相互の検証・批判を経た研究成果を共有するための場として、公開研究会を開催しています。所員・研究員のほか、所外の研究者にも報告を依頼し、研究水準の向上を図っています。年数回、公開の形で実施しており、開催回数は126回(2021年6月現在)となりました。

4. 非文字資料研究センター

神奈川大学21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」の5年間の研究事業を継承・発展させる組織として神奈川大学日本常民文化研究所に付置されました。文字以外の人間諸活動の表現形態を対象に調査研究、資料収集の実施、世界への発信を目的としています。



「チョコレートと兵隊」戦意高揚紙芝居コレクション
(非文字資料研究センター所蔵)

5. 国際常民文化研究機構



共同研究(一般)台湾の「海女(ハイルー)」に関する民族誌的研究
石花菜を天日に干す作業を手伝いながらの調査(2019年3月)

国際常民文化研究機構は、国際的な共同研究のための拠点です。グローバル化の中にあって、等身大の生活文化を総合的に調査・研究・分析する方法論の確立を目指し、多文化共生の道を探ります。日本常民文化研究所員の他に学外の研究者を交えて、地域史や民俗・民具に関わる学際的・国際的な共同研究を推進しています。なお、本機構の活動は2021年度をもって終了いたします。

※詳細は24ページをご覧ください。

他機関との連携

さまざまな地域・分野の諸機関と連携した調査研究も、本研究所の重要な活動となっています。
また、海外の研究機関とも常民文化研究の相互理解と交流を深めるために、学術交流を行っています。

近年の主な連携機関・事業

横浜市歴史博物館

神奈川大学と同じ横浜市内にある博物館として、さまざまな事業での相互協力を行っています。2002年の「屋根裏の博物館―実業家渋沢敬三が育てた民の学問」、2017年に「和船と海運―江戸時代横浜の船路と和船のしくみ」などの特別展を共催しています。2021年には企画展「布 うつくしき日本の手仕事」を共同開催する予定です。



企画展共同開催「布 うつくしき日本の手仕事」ポスター

輪島市教育委員会

2012年より輪島市教育委員会からの受託研究として角海家の襖下張文書調査や民具の調査を行ってきました。そのほか、所員による講演など、さまざまな形で協力関係が継続されています。

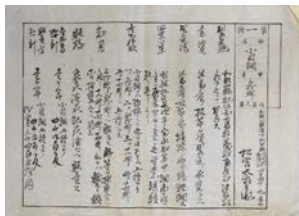
三宅村教育委員会

2016年より三宅村からの受託研究として、三宅村郷土資料の調査、公開、保存に関わる事業を進めるために調査、整理作業、三宅島郷土資料館の資料目録の作成を進めています。また、三宅村の生業（農業・漁業・その他）にかかわられている方々に実施した聞き書き調査の結果をオーラルヒストリーとしてまとめ、冊子を刊行しています。



三宅島郷土資料館の展示

水産研究・教育機構水産資源研究所



和歌山県湯浅に伝来した漁網製造の資料

1949年～54年度に実施された「漁業制度資料調査保存事業」により収集された古文書等の再整理作業を、2001年度より水産総合研究センター（2016年度より水産研究・教育機構に変更）からの受託研究として実施しています。

日本民具学会

同学会は、財団法人日本常民文化研究所が開催していた民具研究講座の活動の中から1976年に設立され、相互に協力しながら民具研究を推進してきました。2005年度からは本研究所内に学会事務局がおかれています。

学術交流

学術交流協定

本研究所では下記の研究機関と学術交流協定を締結し、シンポジウムや研究会、講演会などへの招聘や派遣、研究成果および研究動向などの情報交換、調査研究協力などを行い、交流を促進することにより国際的なネットワークを形成しています。



国立民族学博物館の収蔵庫見学（2020年2月）

- 国立台北芸術大学文化資源学院 2020年3月28日
- 国立民族学博物館 2020年3月26日
- 国立台湾海洋大学海洋文化研究所 2017年6月28日
- 浙江海洋大学中国海洋文化研究中心 2016年5月25日
- 韓国中央大学校韓国文化遺産研究所 2012年7月14日
- サンパウロ大学日本文化研究所 2012年4月1日
- 韓国国立木浦大学校島嶼文化研究院・島の人文科学研究団 2011年4月1日
- 慶北大学校嶺南文化研究院 2009年12月28日
- 釜慶大学校海洋文化研究所 2009年12月25日
- 中国海洋大学海洋文化研究所 2009年11月24日
- 上海海洋大学経済管理学院・海洋経済文化研究センター 2009年11月20日

東アジア島嶼海洋文化フォーラム



第7回東アジア島嶼海洋文化フォーラム
「海域人文ネットワークの展開と交流」
（韓国釜慶大学校／2019年11月）

2012年度より韓国・中国・日本の海洋文化に関する研究機関が中心となり発足した「東アジア島嶼海洋文化フォーラム」は、2013年度から各参加校が主催となって毎年開催され、海洋文化に関わる重要な国際的な討論の場となっています。2019年

度には韓国釜山市にて釜慶大学校主催で第7回のフォーラムが、「海域人文ネットワークの展開と交流」をテーマとして開催されました。

五大学研究所連合

日本の民俗学の形成にそれぞれの立場から大きな足跡を残した民俗学の三先達、柳田國男・折口信夫・渋沢敬三の学問と思想を踏まえ、その意志の継承と発展、実践を志向する成城大学民俗学研究所、國學院大學折口博士記念古代研究所、神奈川大学日本常民文化研究所と愛知大学総合郷土研究所、南山大学人類学研究所が、2008年度より民俗学の今日的な意味をさまざまな角度から捉える共同の研究会を行っています。

所員紹介

※◎所長 ○運営委員

内田青蔵 UCHIDA Seizo

[所属] 神奈川大学工学部 教授

[学位] 工学博士

[専門分野] 近代日本建築史 近代日本住宅史

[研究業績]

1. 共著『和室学—世界で日本にしかない空間』平凡社 2020年
2. 共著『分離派建築会—日本のモダニズム建築誕生』京都大学学術出版会 2020年

大川 啓 OKAWA Hiromu

[所属] 神奈川大学国際日本学部 准教授

[学位] 博士(史学)

[専門分野] 日本近現代史

[研究業績]

1. 「民衆運動と近代社会」『日本史研究』690号 日本史研究会 2020年
2. 「近代日本における名望と地域福祉の社会史」『歴史学研究』929号 歴史学研究会 2015年

小熊 誠 OGUMA Makoto ○

[所属] 神奈川大学国際日本学部 教授

[学位] 博士(文学)

[専門分野] 民俗学

[研究業績]

1. 編著『〈境界〉を越える沖縄』森話社 2016年
2. 「“間”の民俗—養子制度から沖縄の門中を再検討する」『歴史と民俗』30 平凡社 2014年

小野寺淳 ONODERA Atsushi

[所属] 神奈川大学国際日本学部 特任教授

[学位] 文学博士

[専門分野] 歴史地理学 地図史

[研究業績]

1. 共編著『国絵図読解事典』創元社 2021年
2. 『近世河川絵図の研究』古今書院 1991年

木下直之 KINOSHITA Naoyuki

[所属] 神奈川大学国際日本学部 特任教授

[専門分野] 日本美術史 博物館学 文化資源学

[研究業績]

1. 「義足考1904-2020」『歴史と民俗』37 平凡社 2021年
2. 『動物園巡礼』東京大学出版会 2018年

久留島典子 KURUSHIMA Noriko

[所属] 神奈川大学国際日本学部 教授

[専門分野] 日本中世史

[研究業績]

1. 「益田氏系図再考—史料編纂所寄託益田氏関係系図の紹介と考察」『東京大学史料編纂所研究紀要』29 2019年
2. 『日本の歴史13 一揆と戦国大名』講談社 2001年

昆 政明 KON Masaaki ○

[所属] 神奈川大学国際日本学部 特任教授

[専門分野] 民俗学 船舶史

[研究業績]

1. 「北日本における伝統的木造漁船の船体構造の変遷過程」『国際常民文化研究叢書5—環太平洋海域における伝統的造船技術の比較研究』2014年
2. 「艀・櫂の操作と絵画表現」『国際シンポジウム報告書Ⅱ』“モノ”語り—民具・物質文化からみる人類文化 2011年

後田多敦 SHIITADA Atsushi

[所属] 神奈川大学国際日本学部 教授

[学位] 博士(歴史民俗資料学)

[専門分野] 日本近代史 琉球史

[研究業績]

1. 『救国と真世—琉球・沖縄・海邦の史志』琉球館 2019年
2. 「『海邦小国』をめざして—「史軸」批評による沖縄「現在史」」出版舎 Mugen 2016年

周 星 ZHOU Xing

[所属] 神奈川大学国際日本学部 教授

[学位] 法学博士

[専門分野] 中国民俗学 中国文化人類学

[研究業績]

1. 共著『民俗学の思考法』慶應義塾大学出版会 2021年
2. 共著『現代民俗学的視野と方向—民俗主義・本真性・公共民俗学・日常生活』商務印書館 2018年

須崎文代 SUZAKI Fumiyo

[所属] 神奈川大学工学部 特別助教

[学位] 博士(工学)

[専門分野] 住宅史 台所史 近代建築史

[研究業績]

1. 共著『台所見聞録—人と暮らしの万華鏡』LIXIL 出版 2019年(展覧会関連刊行物)
2. 共著『奇跡の住宅—旧渡辺甚吉邸と室内装飾』LIXIL 出版 2020年(チューダー様式の住宅建築の解体・保存・移築プロジェクト)

角南聡一郎 SUNAMI Soichiro

[所属] 神奈川大学国際日本学部 准教授

[学位] 博士(文学)

[専門分野] 仏教民俗学 物質文化研究

[研究業績]

1. 「日式表札の成立と越境—旧日本植民地における諸相とその後」『帝国日本における越境・断絶・残像—モノの移動』風響社 2020年
2. 「寺院に伝わる怪異なモノ—仏教民俗学の視座」『アジア遊学』239 勉誠出版 2019年

● 2021年6月時点の情報です。所員・客員研究員・特別研究員の最新情報は研究所 Web サイトをご覧ください。

関口博巨 SEKIGUCHI Hiroo ○

[所属] 神奈川大学国際日本学部 准教授

[学位] 博士(歴史民俗資料学)

[専門分野] 日本近世史 古文書の整理と修復

[研究業績]

- 『近世村落の領域と身分』吉川弘文館 2021年
- 『古文書を学ぶ―市川海老蔵の証文から』御茶の水書房 2021年

泉水英計 SENSUI Hidekazu ○

[所属] 神奈川大学経営学部 教授

[学位] DPhil

[専門分野] 社会人類学

[研究業績]

- 共編著『よみがえる 沖縄 米国施政権下のテレビ映像―琉球列島米国民政府(USCAR)の時代』不二出版 2020年
- 「米国施政下琉球の結核制圧事業」『帝国日本の科学思想史』勁草書房 2018年

高城 玲 TAKAGI Ryo

[所属] 神奈川大学経営学部 教授

[学位] 博士(文学)

[専門分野] 文化人類学 東南アジア(タイ)研究

[研究業績]

- 『秩序のミクロロジー―タイ農村における相互行為の民族誌』神奈川大学出版会 2014年
- 共編『DVDブック 甦る民俗映像―渋谷敬三と宮本馨太郎が撮った1930年代の日本・アジア』岩波書店 2016年

道用大介 DOYO Daisuke

[所属] 神奈川大学経営学部 准教授

[学位] 博士(工学)

[専門分野] 経営工学 デジタルファブ리케이션

[研究業績]

- 「カイゼン活動の文脈でのEnd User Development―文化的アプローチによる実証研究」『国際経営論集』神奈川大学経営学部 2021年
- 「経営学部におけるファブラボの可能性に関する考察」『神奈川大学国際経営研究所プロジェクトペーパー』神奈川大学国際経営研究所 2018年

平井 誠 HIRAI Makoto

[所属] 神奈川大学人間科学部 教授

[学位] 博士(理学)

[専門分野] 人文地理学 地誌学

[研究業績]

- 「高齢人口移動」『人口学事典』丸善出版 2018年
- 「横浜を歩いて地域人口の特徴を考える」『〈地理を学ぼう〉地理エクスカッション』朝倉書店 2015年

平山 昇 HIRAYAMA Noboru

[所属] 神奈川大学国際日本学部 准教授

[学位] 博士(学術)

[専門分野] 日本近代史 観光史

[研究業績]

- 『初詣の社会史 鉄道が生んだ娯楽とナショナリズム』東京大学出版会 2015年
- 『鉄道が変えた社寺参詣』交通新聞社新書 2012年

廣田律子 HIROTA Ritsuko

[所属] 神奈川大学経営学部 教授

[学位] 博士(文学)

[専門分野] 中国祭祀儀礼 中国祭祀芸能 中国民俗学

[研究業績]

- 編著『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 2016年
- 『中国民間祭祀芸能の研究』風響社 2011年

前田禎彦 MAEDA Yoshihiko

[所属] 神奈川大学国際日本学部 教授

[専門分野] 日本古代史

[研究業績]

- 「中世二神氏と二神島」『歴史と民俗』35 平凡社 2019年
- 「古代の裁判と秩序」『岩波講座 日本歴史5 古代5』岩波書店 2015年

丸山泰明 MARUYAMA Yasuaki

[所属] 神奈川大学国際日本学部 准教授

[学位] 博士(文学)

[専門分野] 民俗学

[研究業績]

- 『渋谷敬三と今和次郎―博物館の想像力の近代』青弓社 2013年
- 『凍える帝国―八甲田山雪中行軍遭難事件の民俗誌』青弓社 2010年

安室 知 YASUMURO Satoru ◎

[所属] 神奈川大学国際日本学部 教授

[学位] 博士(文学)

[専門分野] 民俗学(生業論 環境論) 物質文化論

[研究業績]

- 『都市と農の民俗―農の文化資源化をめぐる』慶友社 2020年
- 『自然観の民俗学―生活世界の分類と命名』慶友社 2016年

山本志乃 YAMAMOTO Shino

[所属] 神奈川大学国際日本学部 教授

[学位] 博士(文学)

[専門分野] 民俗学(交通交易論) 旅行文化論

[研究業績]

- 『「市」に立つ一定期市の民俗誌』創元社 2019年
- 『行商列車―〈カンカン部隊〉を追いかけて』創元社 2015年

創立100周年記念

2021年、神奈川大学日本常民文化研究所は創立100周年を迎えました。

研究所のはじまりは、渋沢敬三(1896～1963)がまだ東京帝国大学の学生だった頃に、自宅の物置小屋の屋根裏に生物の標本や郷土玩具を友人たちと持ち寄ってつくった小さな博物館でした。大学卒業を間近にひかえた1921年の5月、渋沢は友人たちと相談し、学問研究のための同好会「アチックミュージアムソサエティ」を設立します。

渋沢は、屋根裏という家の中の周縁的な空間で、本業の仕事の合間に余暇として行う学問を、世界の人類に貢献する本物の学問にしようとする情熱を持っていました。銀行ではたらく傍ら、渋沢は屋根裏の博物館＝アチック・ミュージアムを拠点にして普通の人々、すなわち常民の生活文化についての歴史学や民俗学の研究を行います。やがてアチック・ミュージアムは屋根裏から飛び出して渋沢邸内の専用の建物となり、大学を卒業した若者を研究員として雇い、調査や資料収集・出版を行いました。

アチック・ミュージアムは、1942年に日本常民文化研究所と改称します。1963年の渋沢の没後、日本常民文化研究所は民間の研究機関として活動し続けましたが、1981年に神奈川大学に招かれて大学の付置施設となります。研究所を母体として、1993年には大学院教育を行う歴史民俗資料学研究科を開設しました。大学院で学んだ学生たちは、国内外の大学や博物館で研究を行っています。そして2020年には学部教育を行う国際日本学部歴史民俗学科を開設します。屋根裏からはじまった研究所は、国内の研究者はもとより、海外の研究者とも交流を行い、さらには日本人のみならず留学生も学ぶ研究教育機関に成長しました。

神奈川大学日本常民文化研究所は2021年から2025年までの5年間にわたり、これまでの成長の歴史を振り返るとともにさらに次の100年を目指して、100周年を記念した講座の開催や、100周年記念論集などの刊行物の発行を計画しています。



アチック・ミュージアム(1920年代後期) 目録番号:写4-1-7-2



アチック・ミュージアムで民具を付けた同人 目録番号:ア-78-12



アチック・ミュージアム新館(1933年竣工) 目録番号:河1-6-15

● 本研究所の詳細な沿革については、Web サイトをご覧ください。



日本常民文化研究所月島分室における古文書整理
(1950年代はじめ)



慶應義塾大学にて開催した第3回民具研究講座
(1976年)



石川県奥能登における古文書の閲覧
(1989年)



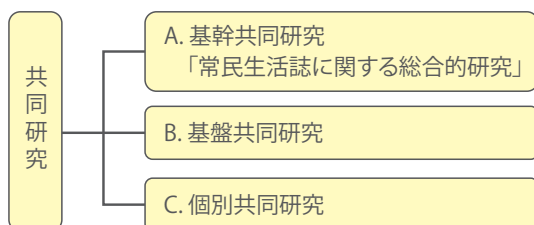
- ❖ 本研究所の研究活動は渋沢敬三が創設したアチック・ミュージアム以来、単なる机上の分析に留まらず、現地調査・フィールドワークを踏まえた研究・分析であるところに特徴があります。
- ❖ 「A. 基幹共同研究」「B. 基盤共同研究」「C. 個別共同研究」の三つのカテゴリを設定し、地域の生活文化を全体として明らかにすべく、地域の古文書・民具・写真・絵画・建築・景観等のさまざまな資料を収集、整理、保存し独自の視点で分析するほか、目録や資料集、論文集として成果を発信しています。また各地の研究者と交流を深めるため、テーマに沿った研究会も行っています。

目的と概要

1. 共同研究

現在、本研究所では、以下の三つのカテゴリを設定して学際的な共同研究を進めています。

共同研究カテゴリ



● A. 基幹共同研究

本研究所の設立の理念にもとづき、中長期的展望のもと、先端的・学際的な共同研究を行います。研究所の所員が全体として取り組む研究活動として位置づけています。

● 「常民生活誌に関する総合的研究」の推進

本研究所の基幹共同研究は、現在「常民生活誌に関する総合的研究」として取り組みを始めています。衣食住を中心とした日常生活をテーマに、歴史や民俗を含めた幅広い観点から、現地調査によって得た諸資料を収集・整理し、研究を進めます。



基幹共同研究「常民生活誌に関する総合的研究」
布の製作と利用に関する総合的研究
写真左:葛皮(糸の原料)、中:葛糸、右:葛布(研究所蔵)

● B. 基盤共同研究

本研究所の基本方針である博物館機能の強化につながる、所蔵資料をもとにした共同研究を行います。これにより、常民研以外の研究者にも広くひらかれた所蔵資料の研究資源化を増進します。これまで取り組んできた「地域の総合的研究」もこのカテゴリに含まれます。やはり中長期的な展望にもとづいた共同研究として位置づけています。

● C. 個別共同研究

個別の課題にもとづき、中短期的展望のもと、将来の「基幹」「基盤」研究になり得る萌芽的共同研究として位置づけています。

● 研究成果の発信

上記の研究の進展の様子は、WebサイトやSNSで適宜発信します。研究成果は資料集、調査報告、論文集として刊行、常民文化研究講座を始めとした研究会・シンポジウムを通して公開します。

2. 民具研究

『民具マンスリー』(月1回発行)の編集・刊行の基礎となる調査研究活動を推進しています。その際、地域史との関連を特に重視し、全国的に活発化しつつある民具研究の拠点として、その指標となるような研究を進めています。関連する企画として、常民文化研究講座の一環で年2～3回の「民具を語る」研究会を開催し、民具や地域博物館・資料館等をめぐる話題を中心に検討しています。

3. 資料管理に関する研究

古文書や民具は、それ自体としては「もの」にすぎません。それを歴史や文化を語らせるための資料とするためには、きちんとした方針のもとに整理し、記録し、保存しなければなりません。本研究所では、修復・保存の技術的問題も含めて、資料管理に関する全般的问题を検討しています。常民文化研究講座の一環で行われている「古文書修復実習」や本学生涯学習講座「古文書講読講座」等を開催しています。

● 所蔵資料の研究資源化

本研究所が所蔵する古文書などの地域資料を整理し目録集を継続的に発行しています。こうした目録整理により、広く社会に所蔵資料の公開を計るなど、地域史研究の推進を図っています。

4. アチック・ミュージアムおよび常民研の活動状況に関する研究

1921年にアチックミュージアムソサエティとしてはじまり、1925年以来アチック・ミュージアムおよび日本常民文化研究所として継続してきた活動は、民俗学、民族学、民具研究、漁業史研究などの学問形成に深く関与しており、研究所の歴史そのものが研究対象といえます。こうした観点から、引き継いだ諸資料のほか各地に分散している関係資料の調査、研究を進めています。

A. 基幹共同研究「常民生活誌に関する総合的研究」

" 日常茶飯 " —日本人は何を食べてきたか— 予備的研究



飯山市富倉のササズシ(安室知氏／撮影)



有蘭正一郎『近世庶民の日常食
—百姓は米を食べられなかったか—』海青社(2007)

期間:2020年～ 代表者:周星

〔調査地域〕日本および東アジア(中国大陸・韓国・台湾)

〔研究目的〕

本研究では、日本の常民の食生活と世界無形文化遺産として登録された「和食」との関係性を明らかにするため、日本人は何を食べてきたのかを多角的、また異文化から見た「和食」の特長などを検討する必要がある。

日本は古くから魚食文化が根付き獣肉食は近代まで遠ざけられてきた。一方、庶民が米を常食可能になったのは戦後の高度成長期以降だが、近年、米を常食化してきた地方もあることなどの実証的研究も示されてきた。

本研究では、肉食率が魚食率を超えコメ離れが進み食生活が多様化する中で従来の通説を再検討し、食材のみならず食事作法、食器など広く食事文化を当たり前の「日常茶飯の文化」の表象としてとらえる。当然、茶に対する酒のように非・日常として食事文化もその対照として取り上げられる。参加メンバーのテーマとして「米文化の再検討・餅の多様性」、「食をめぐる物質文化・民具」、「食の比較文化—粽など」、「日常・非日常の食文化」、「グローバル時代と食文化」などの報告が予定されている。

A. 基幹共同研究「常民生活誌に関する総合的研究」

布の製作と利用に関する総合的研究

期間:2019年～ 代表者:昆政明

〔調査地域〕地域を特に定めないが、当面は日本国内を対象とする。

〔研究目的〕

布は人の生活にとって欠くことのできないものである。用途にとってさまざまな材料から糸が紡がれ、布に織られてきた。本研究はさまざまな材質の糸が布となり、それがどのように利用されたかを総合的に研究する。利用の中心は衣類である。衣類に使用される布は時代や使用目的によって変化する。また、布の利用は衣類以外にも多岐にわたっており、使用目的によって必要とされる素材も変化する。本研究は素材による布の性質の違いが、その利用にどのような影響を与えたかを、総合的にとらえることを目的とする。

各所員および学内外の研究者の協力を得て調査研究を進める。データを統合的に整理し、他機関の研究者にも利用可能な文化資源として提供するとともに、学内における教育資料、展示施設を利用した普及事業への活用が期待される。



楯や藤などさまざまな材料から織られた布(研究所蔵)



収集資料の点検作業

A. 基幹共同研究「常民生活誌に関する総合的研究」

便所の歴史・民俗に関する総合的研究



近世書物にみる便所の妖怪(『今昔画図続百鬼』1779(安永8)年)

期間:2019年～ 代表者:須崎文代

〔調査対象〕文献史料および国内外の住宅遺構における便所の空間・設備、糞尿の扱いと衛生論に関する調査研究

〔研究目的〕

本共同研究は、「便所」と糞尿の扱いの歴史と民俗に関して、歴史学、民俗学、建築学からの視点を中心として、総合的に調査研究を行うものである。

人間の生活に密接に関わる「便所」と生物の糞尿の扱いは、国内や世界各地の生活文化の多様性のなかでさまざまな風習・思想を有している。本研究ではこうした地域特有の便所空間や糞尿処理、あるいは衛生観や穢れの思想について検討し、人間生活の変容の一側面を明らかにすることを目的としている。

本研究は、(1)関係史料の収集・整理、(2)国内外の住居の遺構調査(フィールドサーベイ)の2点を中心に調査分析を行う。さらに(3)上記の歴史学、民俗学、建築学ほか、社会学、地質学など関連分野の専門家による講演会を実施し、多様な分野・地域・時代からみた便所の歴史・民俗を複合的に検討する。



大正期における便所の水洗化の啓蒙ポスター
「今少し文化設備に親しめ」(1919(大正8)年開催 文部省生活改善展覧会のポスター 出典:国立科学博物館)

B. 基盤共同研究

海域・海村の景観史に関する総合的研究

期間:2015年～ 代表者:安室 知

〔調査地域〕日本常民文化研究所所蔵の漁場図に描かれている地域、及び関連する海域・海村

〔研究目的〕

本共同研究は、常民研において開所以来取り組んできた海域・海村史の研究蓄積を継承し発展させるものである。海は水産物だけでなくさまざまな資源を生み出す。その開発・利用に当たっては、人・物・情報の行き来を促し、そうした営みを通して社会知や民俗知が膨大に集積される空間となっている。反面、負の記憶として海域の利用をめぐる個人や村のレベルから国際的な問題まで対立や紛争を生んできた。また海と対峙する海村では、災害や大事故が歴史的に繰り返されてきた。そうした海域・海村の歴史民俗文化について漁業制度資料調査で全国から収集された「漁場図」に描かれた景観を手がかりに、本研究の人的資源を活用し学際的に研究することが主な目的となる。

期待される成果としては、フィールドワークをおこない、共同研究会において学際的な検討を経た後、研究成果を論文集としてまとめる。また、常民研が所蔵する「漁場図」のデジタル化・図録化を進め、研究資源として広く社会に公開する。



深見村・鹿磯村(現輪島市)漁場図



第8回 漁場図研究会 公開研究集会(2020年1月)

B. 基盤共同研究

日本常民文化研究所所蔵資料からみるフィールド・サイエンスの史的展開



「パイワン学歴史工作坊」でのアチックフィルム上映会
(台湾屏東県三地門郷大社バリヤン村／2018年10月26日)



第11回公開研究会「東亜同文書院生の中国大(調査)旅行と描かれた近代中国」
藤田佳久氏(日本常民文化研究所／2019年11月22日)

期間:2016年～ 代表者:泉水英計

〔調査地域〕研究所所蔵の民族学振興会資料、アチック写真・フィルムが発生した過去の調査活動の対象となった地域

〔研究目的〕

常民研が所蔵する民族学振興会資料とアチック写真・フィルムを主な基礎資料とし、研究会と共同調査を行う。具体的には、資料が発生した過去の調査活動の対象となった地域で追跡調査を行い、関連情報を収集するとともに、資料を共有または分有する諸機関(宮本記念財団・渋沢史料館・国立民族学博物館)との連携の下で資料の有効活用を進め、本邦における民俗学、民族学・文化人類学、農村社会学、地理学、地域研究といったフィールド・サイエンスの展開について新しい歴史像を提示することを目指す。

各所員が学問分野、対象地域のいずれかの専門に応じて適宜現地調査を行い、順次、この作業を通じて関連するデータを統合的に整理し、再編集等の加工を施し他機関の研究者にも利用可能な文化資源として提供することが期待される。

B. 基盤共同研究

二神家・二神島の歴史・民俗研究

期間:2016年～ 代表者:前田禎彦

〔調査地域〕愛媛県松山市二神島

〔研究目的〕

従来、常民研が継続してきた二神島の歴史・民俗研究の新たな展開を図る。

1. 松山市粟井地区の二神家関連資料を調査し、中世二神家の活動の多面性を明らかにする。
2. 近世二神家文書の整理・読解をさらに進め、近世二神家の活動を明らかにする。
3. 「二神系譜研究会」の活動状況を調査・分析し、その社会的意義を明らかにする。

〔研究内容〕

2016年度、共同研究「瀬戸内海の歴史民俗」のあとをうけて「基盤共同研究 二神家・二神島の歴史・民俗研究」が開始された。2020年度までの成果として、第21回 常民文化研究講座「二神島 その歴史と民俗を訪ねて—二神島調査と神奈川大学日本常民文化研究所—」(2017年12月)の開催、『二神司朗家文書 近世・由利島編』(2019年2月)、『島のスケッチ帖 二神司朗が見た二神島 二神島絵画資料集』(2020年3月)の刊行などがある。

〔期待される成果〕

共同研究は一段落終えつつあるが、今後も二神島の関係者や「二神系譜研究会」の方々と連絡を取りながら、二神島の歴史・民俗の遺産を継承する役割を果たしていく。



『油利島』二神新四郎種章が編んだ由利島にかんする記録集



ナグサク(ナゴサカ)の丘(二神司朗氏画／1933(昭和8)年・スケッチブックより)

B. 基盤共同研究

ポルト・エヴォラ屏風文書の総合的研究による新領域の開拓



下張り文書の予備調査(2020年1月)



ソアレス・ドス・レイス国立博物館にて(2020年1月)

期間:2020年～ 代表者:関口博巨

[調査地域] ポルト市(ポルトガル)ほか

[研究目的]

本研究は、エヴォラ屏風文書(レプリカ、本学所蔵予定)ならびにポルト南蛮屏風下張り文書(ポルトガル・ポルト市、ソアレス・ドス・レイス国立博物館所蔵)に関する総合的・資料学的研究を目的としている。

エヴォラ屏風文書(レプリカ)は、20世紀初頭にポルトガルのエヴォラで発見された屏風下張り文書であり、豊臣秀吉側近の安威氏関係文書、キリスト教布教関係の記録など、1600年前後の史料群である。

ポルト南蛮屏風下張り文書は、京都の菓子屋「菱屋」が所蔵していた近世中期の古文書(約2,000枚)である。その屏風絵は狩野派の絵師が描いた17世紀初頭の優品で、近世初期の風俗資料としても価値が高い。下張り文書は、2002年の屏風修復の際に取り外されたものである。

本研究では、これらポルトガル伝来屏風文書のデジタルデータ化と目録の整備をすすめる。将来的には、他の在外下張り文書も視野に入れて、歴史学・民具学・美術史学・キリスト教史学・情報学・建築史学・文化人類学などの学知や古文書修復などの経験知を総合した国際的・学際的な研究に発展させることを期している。

C. 個別共同研究

歴史民俗資料とデジタルファブリケーションの可能性の研究

期間:2020年～ 代表者:関口博巨

[研究目的]

デジタルファブリケーション機器からアナログ工作機械まで備えた市民工場のことを「ファブラボ(Fab Lab)」と呼ぶ。デジタルファブリケーションとは、3Dプリンターやレーザーカッターなどの機材を活用し、デジタルデータにもとづいたモノづくりを行う技術のことである。ファブラボは、単にデジタル機器を備えた施設であるだけでなく、「自分たちの使うものを、使う人自身がつくる文化」を醸成する国境を越えた市民工房ネットワークなのである(「FabLab Japan」Webサイトによる。<http://fablabjapan.org/whatsfablab/>)。

2021年度にオープンした神奈川大学みなとみらいキャンパスの1階のラボには、所員の道用大介氏(経営学部准教授)が主宰する「ファブラボみなとみらい」がある。本共同研究では、ファブラボみなとみらいと協力し、歴史民俗資料の現物ないし実測図面からのレプリカ作成、実物資料の3Dデータ化などを模索しようとするものである。最先端のモノづくりを追究するファブラボと、伝統的なモノを資料とする当研究所が、分野を越えて連携することによって、「ファブラボみなとみらい」のソーシャルコモンズとしての機能は、よりいっそう意義のあるものとなるに違いない。



旧ファブラボ(ファブラボ平塚)での作業風景



擬似古文書用版木の試作品

研究拠点 気仙沼大島漁協文庫の管理と活用

期間：2016年～ 代表者：安室 知

〔調査地域〕宮城県気仙沼市

〔目的〕

神奈川大学日本常民文化研究所と大学院歴史民俗資料学研究科、および工学部建築学科重村・三笠研究室が協働で行ってきた気仙沼大島漁業協同組合資料の保全・再生活動では、4,000点強の漁協資料を分類整理し、2015年9月に完成した大島漁協文庫にそれらを収めた。

この大島漁協文庫は、単に漁協資料の保全のみならず、本研究所と歴史民俗資料学研究科等の研究拠点になると同時に、地元有志を中心とした「大島漁協文庫の会」により運営・活用され、大島の文化振興とそれを発信する拠点となることが期待される。



大島漁協文庫



『大島の記憶——I 伝承の島づくりへ』気仙沼・大島みらい創り協議会 協力／日本常民文化研究所（2021年2月）

受託研究 三宅村郷土資料公開・保存事業

期間：2020年10月14日～2021年3月19日 代表者：田上 繁 角南聡一郎

※2016年度より継続事業

〔調査地域〕東京都三宅島

〔研究目的〕

三宅村の委託研究として、三宅村郷土資料の調査、公開、保存に関わる事業を進めるため、現地にて調査、整理作業を行う。具体的には三宅島郷土資料館の資料目録を作成する。また、三宅村の古老に生業や慣習などについて聞き書き調査を実施し、その結果をオーラルヒストリーとして冊子体にまとめる。三宅村は度重なる火山噴火に見舞われた。島内には歴史的に重要な諸資料をはじめ三宅島だけに伝わる固有の民俗が残されており、既調査でもテングサ採取の最盛期の実態や、鳥羽地方から移住した海女の存在、江戸時代に禁制とされた不受不施派僧侶の墓石の存在などが確認されている。文化財の調査、保存態勢の構築が急がれる中で、本調査の果たすべき役割は大きいといえる。



三宅島郷土資料館の調査（2017年11月）

受託研究 国立研究開発法人水産研究・教育機構古文書目録作成業務

期間：2020年10月～2021年2月 代表者：安室 知

※2001年度より継続業務。ただし、2020年度はコロナ禍の影響により契約せず、目録原稿の校正作業のみ実施

〔調査地域〕和歌山県有田郡湯浅町ほか（2019年度）

〔研究目的〕

1949～1955年にかけて、水産庁が日本常民文化研究所に委託してはじめられた「漁業制度資料調査保存事業」によって、全国の漁業・漁村資料およそ20万点が収集された。その中には、漁業権に関する資料のほかに絵図類なども含まれていた。資料は、国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所図書資料館に収蔵されている。同資料の整理・目録化作業は、現在では同法人による委託事業として進められている。

目録集の刊行にあたっては、現地調査を行い、資料群の旧所蔵者宅を訪問して、資料群の伝来に関する諸情報を取材し、あわせて現地研究者にも聞き取りを行い、資料群の解説を付している。



湯浅町での資料調査（2019年3月）

共同研究の成果

調査が終了した下記の共同研究は、現在報告書や資料目録などの編集を行っています。

共同研究

ブラジル日本人入植地の歴史民俗学的研究

〔調査地域〕南米とくにブラジル国サンパウロ州における日本人入植地
および戦後沖縄移民をふくむ日系人集住地区

※本研究はJSPS 科研費15H05172の助成を受けたものです。
基盤研究(B)ブラジル日本人入植地の歴史民俗学的研究
(2015年4月1日～2019年3月31日)

左:
ブラジル日本人入植地の常民
文化 民俗歴史編
(2021年3月)
右:
ブラジル日本人入植地の常民
文化 建築編(2021年3月)



共同研究

山城国大山崎荘の総合的研究

〔調査地域〕京都府乙訓郡大山崎町

・2021～2023年度編集予定

離宮八幡宮文書目録(三)近代・現代編2

離宮八幡宮文書目録(四)近代・現代編3

左:
離宮八幡宮文書目録(一)
近世編(2019年3月)
右:
離宮八幡宮文書目録(二)
近代・現代編1(2020年3月)



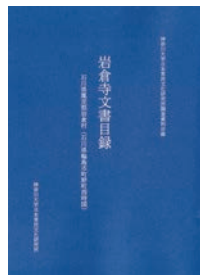
共同研究

奥能登の研究

〔調査地域〕石川県輪島市

・2021～2023年度編集予定

井池家文書目録



岩倉寺文書目録(2019年12月)



これまでに刊行された目録

日本常民文化研究所研究会

日本常民文化研究所は、1983年より年数回、所員相互の検証・批判を経た研究成果を共有するため、公開形式で「神奈川大学日本常民文化研究所研究会」を開催しています。

所員、および客員・特別研究員による専攻分野の研究発表や、研究水準の向上を図るために、所外や海外の研究者にも発表を依頼しています。毎回テーマを新たに設定することで、異なる研究分野との交流や最新の研究動向を発表する場ともなっています。継続的に行われ、開催回数は通算126回(2021年6月現在)となり、常に関連研究の発展と向上に努めています。

2020年度 日本常民文化研究所研究会(すべてOn-line開催)

研究座談会 2020年7月17日

「渋沢敬三とアチック・ミュージアム(日本常民文化研究所)の回顧と展望—人類学的視点から」全京秀

第121回 2020年11月18日

「義足考1964—傷痍軍人と義足モデルの接点—」木下直之

第122回 2020年12月16日

「現代中国のトイレ革命について」周 星

第123回 2021年1月20日

「神奈川県防疫関係石造物—コレラを中心に—」角南聡一郎

第124回 2021年2月17日

「この史代『この世界の片隅に』における手紙 日本のチェーンメール史の一コマとしての考察」丸山泰明

第125回 2021年3月17日

「片句大師堂と渋沢敬三—宮本常一の出雲探訪の旅からの展開—」山本志乃



第121回研究会 発表／木下直之
(2020年11月／オンライン)



第122回研究会 第5回公開研究会 基幹共同研究「便所の歴史・民俗に関する総合的研究」発表／周星
(2020年12月／オンライン)



- ❖ 本研究所の所蔵資料は、下記のように多岐にわたります。それは、各地の多くの方々のご協力をいただいて、研究所が取り組んできた調査研究と資料収集活動を跡づけるものといえるでしょう。整理が済んだものから順に公開を進めつつあり、基本的に研究目的の利用が可能です(要事前連絡)。
- ❖ さかのぼれば、渋沢敬三がアチックミュージアムソサエティを立ち上げた直後の1921年に、9項目の運営方針が決められました。その中に、会の事業として、「標本の蒐集、整理、研究、殊に玩具の研究、文献の蒐集(略)」とあり、アチックの基本姿勢に当初から資料の蒐集があったことがわかります。その後、さまざまな事情から、渋沢およびアチックの蒐集した資料は、現在数箇所に分散、収蔵されています。本研究所では、神奈川大学付置となった後に受け入れた資料群とあわせて、現在所蔵している資料を活用できる環境作りをめざしています。
- ❖ リニューアルした「神奈川大学デジタルアーカイブ」で所蔵資料の検索や映像資料動画の閲覧、公式Webサイトの「絵画資料デジタルコレクション」で絵画資料の一部が閲覧可能です。※詳細は16ページをご覧ください。

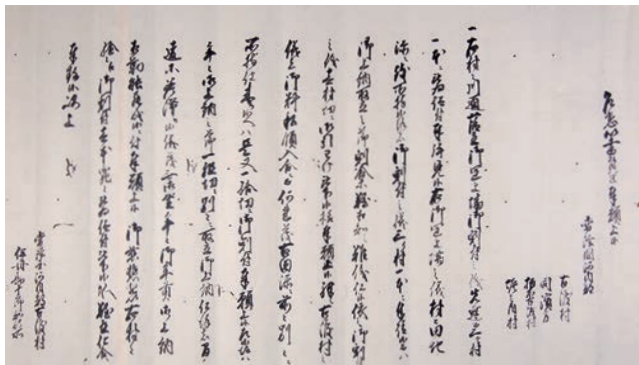
所蔵資料

古文書

本資料には、①研究所が所蔵する古文書類と②各地域で撮影した古文書写真(マイクロフィルム複写古文書)が含まれています。①の古文書類は、アチック・ミュージアム、「漁業制度資料調査保存事業」、神奈川大学日本常民文化研究所が収集したものが、その中には中世文書を含む「二神司朗家文書」があります。②の古文書写真は、マイクロフィルムやデジタル写真で記録され、奥能登の「時国健太郎家文書」「池田周三家文書」などが含まれています。



二神司朗家文書(研究所蔵)



永長栄三郎家文書(研究所蔵)

漁業漁村資料(筆写稿本)

水産庁からの委託により1949年に開始された漁業制度資料調査保存事業において、財団法人日本常民文化研究所月島分室で筆写作成された資料が筆写稿本です。現在、ほぼ同一の筆写稿本が神奈川大学日本常民文化研究所と国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所図書資料館に残されています。筆写はほぼ5年間に
おおよび、全国各県にわたるおよそ30万枚の「漁業制度資料」の筆写原稿(220字詰)が残されています。



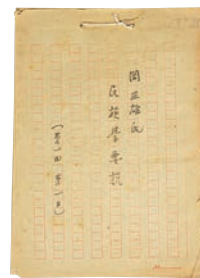
筆写稿本(研究所蔵)

常民研運営資料

常民研はアチックミュージアムソサエティの創設から100年以上の歴史があり、運営に関する諸資料も蓄積されてきました。議事録、日誌、書簡類、帳簿などの資料群は、財団法人解散時に引き継がれたもののほか、時々の研究所運営の中心人物の手元にのこされていたものなどです。また1999年に解散した民族学振興会の運営資料も引き継いでいます。財団引継資料、宇野脩平資料、河岡武春資料、民族学振興会資料などがあります。



藤木喜久馬「古文書と魚名の漢字」の原稿(研究所蔵)



岡正雄による講演の筆記録表紙(研究所蔵)

絵画資料

おもにアチック・ミュージアムで収集・模写された資料で、なまず絵、近世の農業・農具を知るための好資料として著名な『耕稼春秋』、1880(明治13)年成立の『農具絵図』、稲作の作業と子供の遊びの風景、祭礼行事が描かれた1703(元禄16)年水賓和継筆『四季耕作子供遊戯図巻』などを所蔵しています。また『絵巻物による日本常民生活絵引』編纂に伴い、おもに村田泥牛によって作成された日本中世の絵巻物から常民の生活に関わる場面の一部を模写した原画約800点があります。

『四季耕作子供遊戯図巻』、『農具絵図』は研究所 Web サイト内の「絵画資料デジタルコレクション」で閲覧できます。

※詳細は16ページをご覧ください。



なます絵 鹿島大明神の瓢箪鯰(研究所蔵)



『四季耕作子供遊戯図巻』(一部抜粋・研究所蔵)



絵引(原画 鳥獣戯画(模写:村田泥牛/研究所蔵)

写真映像資料



アチック写真 豚の積み出しのため前浜に集まった人々と籠に入った豚
(撮影者:藤木喜久磨/目録番号:河1-7-8/研究所蔵)



横浜写真 水上から見る大棧橋と税関事務所(研究所蔵)

● 写真資料

アチック写真 昭和初期に渋沢敬三らアチック・ミュージアムの同人により撮影された日本・朝鮮・台湾など約8,000点のスチール写真です。

横浜写真 幕末から明治の横浜の風景、風俗を撮影したステレオ写真と白黒写真に彩色を施した写真です。

● 映像資料

アチックフィルム アチック・ミュージアムの漁村・農村調査にて、16ミリフィルムに昭和初期の庶民の生活や景観を記録した映像です。23作品あり、「神奈川大学デジタルアーカイブ」で公開しています。



アチックフィルム『昔時の運輸制度 伊那街道の中馬』1931(昭和6)年9月
(研究所蔵)

民俗資料

● 製作資料

研究テーマにあわせて製作された資料です。職人による製作技術の記録となる鍛造品工程見本、5分の1に縮小して仕立てられた仕事着のひな型のコレクション、船大工近藤友一郎氏による和船模型などがあります。

● 収集資料

実際に使用されていた民具で、農・漁・衣・信仰関係などの資料があります。商家の民具約2,000点、小絵馬約2,000点、ちりめんなどの残り布で作られた小裂細工約300点、襦袢・仕事着などの衣関係を所蔵しています。



製作資料 鍛造工程見本(研究所蔵)



収集資料 ソデナシサシコ 庄内地方 肥引機用(研究所蔵)



収集資料 紙布とその原料(研究所蔵)

所蔵資料検索

本研究所の所蔵資料は資料横断検索システム「神奈川大学デジタルアーカイブ」にて検索や映像資料の動画閲覧、また絵画資料の一部は研究所Webサイト内の「絵画資料デジタルコレクション」で閲覧可能です。ともに研究所のWebサイトからリンクしています。

資料横断検索システム

「神奈川大学デジタルアーカイブ」リニューアル

本学の諸機関が所蔵する歴史・民俗資料、学術資料、研究成果の公開と保存管理のために構築されたものです。日本常民文化研究所、非文字資料研究センター、大学資料編纂室の所蔵・収集資料をはじめ、順次コンテンツの充実を図っていきます。簡易横断検索や、データベースごとの詳細検索が可能です。

<https://www.kanagawa-u.ac.jp/research/digitalarchive/>



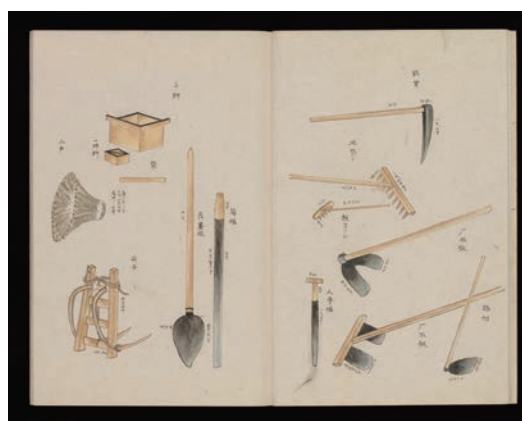
「神奈川大学デジタルアーカイブ」

「絵画資料デジタルコレクション」

研究所Webサイトにて下記の絵画資料を公開しています。

- ・『四季耕作子供遊戯図巻』
- ・農具絵図『広島県下農具絵図』『山城丹波農具ノ図』『農具解説群馬県』『和歌山県西牟婁郡農具絵図面』『和歌山県日高郡農具絵図』

<http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/books/painting.html>



『広島県下農具絵図』(研究所蔵)

所蔵図書

本研究所の所蔵図書は図書と逐次刊行物で構成されています。

図書

一般図書、および下記の文庫を含むすべての図書は神奈川大学図書館OPAC (<https://ufinity.kanagawa-u.ac.jp/>) から検索ができます。

● 一般図書

一般図書は、財団法人のころから収集した蔵書に、神奈川大学に移った後、寄贈・交換・購入した蔵書を加えた図書です。主に地方史・郷土史・民俗学・民族学・水産史・技術史を中心に構成され、総数は約10万冊にのぼります。



財団法人民族学振興会旧蔵書

● 文庫紹介

【彌永貞三文庫】

戦後を代表する日本古代史研究者の一人、故彌永貞三(1915-1983)の蔵書です。彌永は名古屋大学文学部教授、東京大学史料編纂所所長、上智大学文学部教授などの職を歴任し、特に土地制度史を中心とする社会経済史の分野で手堅い実証にもとづく重要な業績を数多く発表して戦後の日本古代史学界をリードしました。代表作は『奈良時代の貴族と農民』(1956)、『日本古代社会経済史研究』(1980)、『日本古代の政治と史料』(1988)。本文庫は名古屋大学で彌永の同僚であった元所員故網野善彦の紹介により受け入れたもので、日本古代史はもとより中国史・仏教史など関連分野の蔵書も充実しており、彌永の学識の広さをうかがうことができます。

【河岡武春文庫】

故河岡武春(1927-1986)は漁村民俗、漁業史、民具研究などを行った民俗学者です。山口県下関に生まれ、大学卒業後、財団法人日本常民文化研究所所員となりました。1982年には神奈川大学経済学部教授に就任。生涯にわたり、本研究所の活動を支え、『民具マンスリー』の創刊、日本民具学会の設立等に携わりました。主な著作に『海の民－漁村の歴史と民俗－』(1987)などがあります。本文庫は学生時代より蔵書家であった、河岡のコレクションであり、民俗・歴史分野に加え、水産関係、文学の書籍も多数含まれています。渋沢敏三の意を汲み、日本各地の民俗学、民具研究者の育成に尽力した氏の研究を顕著にあらわした蔵書群となっています。

【財団法人民族学振興会旧蔵書】

財団法人民族学振興会は1934年に日本民族学会として発足しました。初代理事長には白鳥庫吉、理事に本研究所創設者の渋沢敏三が名を連ねていました。以来、1999年の解散に至るまでの、65年に及ぶ活動の中で収集された蔵書群です。解散に伴い、本研究所ではこれらの蔵書群を受け入れました。本蔵書の特色は、戦前に出版された、中国及び東南アジア諸地域の民族・民俗関係の調査の報告書及び、それに関する書籍類が多数含まれている点にあります。現在では入手困難な書籍も多く、同会の蔵書は日本の民族学研究を検討する上で重要な意味を持っています。

【宮田登文庫】

1994年より神奈川大学教授、日本常民文化研究所所員を務め、大学院歴史民俗資料学研究科にて後進の指導にあたった故宮田登(1936-2000)の蔵書。宮田は『ミロク信仰の研究』(1970)、『妖怪の民俗学』(1985)、『日和見』(1992)、『日本人と宗教』(1999)等多くの業績を残し、長い間民俗学界を牽引しました。本蔵書は宮田が研究の過程で蓄積したもので、主に民俗学、歴史学、宗教の書籍や各種の叢書類で構成されています。宮田民俗学の形成、発展を知る上で不可欠の資料となっています。

逐次刊行物

● 一般逐次刊行物

逐次刊行物は他大学の紀要、全国の博物館、資料館、研究会などとの交換により、約2,700タイトルが所蔵されています。

● 民族学振興会旧蔵逐次刊行物

蔵書と同様に民族学振興会が受け入れていた逐次刊行物で、1,715タイトルが所蔵されています。





❖ 民具研究者の交流の場としての『民具マンスリー』を定期的に刊行しています。2021年5月時点で通巻638号(第54巻2号)までの刊行です。民具を中心とする物質文化研究をテーマとする雑誌の中では最も古い歴史をもっています。

アチック・ミュージアム創設当初から一貫して、研究対象を民具などの物質文化に据えていたことから、渋谷没後の1968年、当時の(財)日本常民文化研究所の運営を担っていた河岡武春らにより、4頁のリーフレットから刊行がはじめられました。1981年より、神奈川大学の付置機関となつてからも刊行は着実に継続され、現在は月刊24頁となっています。

入会方法

会員を随時募集しています。申込方法は以下の通りです。

1. 年間購読会費 3,500円(送料含む)
2. 毎年年度替わりで、4月から1年間。年度途中からの入会もできますが、その場合は当該年度既刊行分をお送りすることでかえさせて頂いております。また、ご入会されると会誌への投稿ができます。なお、投稿規定は、毎年4月号、および研究所Webサイトに掲載しています。
3. 入会ご希望の方は、「民具マンスリー入会希望」と明記の上、氏名・住所・電話番号を記載し、メール、Faxまたは葉書にてお申込みください。ご連絡が届き次第、入会案内と申込書をお送りいたします。
4. 宛先 E-mail: ming-monthly@kanagawa-u.ac.jp Fax: 045-413-4151
または葉書にて、〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 神奈川大学日本常民文化研究所
『民具マンスリー』編集室宛までお送りください。
お問い合わせ Tel: 045-481-5661(代)

●『民具マンスリー』のバックナンバーの詳細は、研究所Webサイトにて公開しています。

「神奈川大学デジタルアーカイブ」からも検索可能です。



54巻2号<2021.5>

刊行物

Publications



❖ 現在、本研究所が企画編集する『歴史と民俗』を定期的に刊行しています。また、資料・生活記録を中心とした「神奈川大学日本常民文化叢書」、委託研究の成果としての「調査報告」、フィールド調査の成果に基づく「調査資料目録」のほか、調査・研究の態様に応じた出版事業にも取り組んでいます。

歴史と民俗



37号<2021.3>

本研究所が特集を組み編集する論集で、1986年に創刊されました。論文や資料紹介、常民文化研究講座や公開シンポジウムの報告等を掲載しています。原則年1回、平凡社からの刊行で2021年現在、通巻37号。なお、25号(2009年)からは所員が特集を企画し、これまで「ことばの力」、「騙り—不幸なる芸術」、「渋谷敬三没後50年」、「天皇、王の葬儀」などのテーマで特集を組んできました。32号からは常民文化研究講座のテーマと連動した特集を組み、さらに37号(2021年)から特集を大小二つのテーマの構成としています。※購入は平凡社へお問合せください。

バックナンバーはWebサイトへ

●『歴史と民俗』1号からのバックナンバーの詳細は、研究所Webサイトにて公開しています。

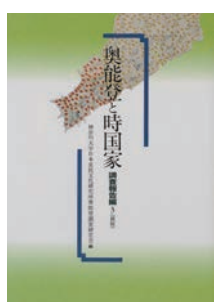
「神奈川大学デジタルアーカイブ」からも検索可能です。

ご批評、ご意見・感想は下記までお寄せください。

宛先 E-mail: jomin-kankobutu@kanagawa-u.ac.jp

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 神奈川大学日本常民文化研究所

『歴史と民俗』編集室宛までお送りください。



入手方法	
100周年記念事業刊行物	A J
紀要『常民文化研究(仮)』1(予定) 古文書修復の手引き(予定)	
共同研究「瀬戸内海の歴史民俗」(神奈川大学日本常民文化研究所編)	A
1. 二神司朗家文書 中世文書・系図編 2016.3	
2. 論集 瀬戸内海の歴史民俗 2016.11	
3. 二神島 葬送と墓の民俗 資料編 2017.8	
4. 島の写真帖 二神島写真資料集 Vol.1 2015.5	
5. 島の写真帖 二神島写真資料集 Vol.2 2016.2	
6. 島の写真帖 二神島写真資料集 Vol.3 2017.6	
7. 島の写真帖 二神島写真資料集 Vol.4 2018.7	
8. 二神島豊田造船所資料集 2018.3	
9. 二神司朗家文書 近世・由利島編 2019.2	
10. 島のスケッチ帖 二神司朗が見た二神島 二神島絵画資料集 2020.3	
共同研究「ブラジル日本人入植地の歴史民俗学的研究」(神奈川大学日本常民文化研究所編)	A
1. ブラジル日本人入植地の常民文化 民俗歴史編 2021.3 2. ブラジル日本人入植地の常民文化 建築編 2021.3 ※本研究はJSPS 科研費15H05172の助成を受けたものです(2015年4月1日～2019年3月31日)	
奥能登と時国家(神奈川大学日本常民文化研究所奥能登調査研究会編)	B
1. 奥能登と時国家 研究編1 1994.8	
2. 奥能登と時国家 調査報告編2(建築・考古・石造物) 1995.8	
3. 奥能登と時国家 調査報告編1(文書・書籍) 1996.5	
4. 奥能登と時国家 研究編2 2001.8	
5. 奥能登と時国家 調査報告編3(民俗) 2001.8	
常民資料叢書(神奈川大学日本常民文化研究所編)	C
1. 紀州小山家文書 2005.4 2. 本山雑記 2007.3	
新版絵巻物による日本常民生活絵引第一～五巻 澁澤敬三・神奈川大学日本常民文化研究所編 1984.8	B
神奈川大学日本常民文化研究所調査資料目録(神奈川大学日本常民文化研究所編)	A
1. 疋田家文書目録 山城国乙訓郡大山崎荘(京都府乙訓郡大山崎町) 2005.3	
2. 観音寺文書目録 山城国乙訓郡大山崎荘(京都府乙訓郡大山崎町) 2005.3	
3. 時国健太郎家文書目録 (石川県輪島市町野町南時国) 2006.3	
4. 青木繁男家文書目録 山城国乙訓郡大山崎荘(京都府乙訓郡大山崎町) 2010.3	
5. 松井幸信家文書目録 山城国綴喜郡松井村(京都府京田辺市) 2010.3	
6. 岩井貞之家文書目録 山城国乙訓郡大山崎荘(京都府乙訓郡大山崎町) 2012.12	
7. 離宮八幡宮文書目録(一)近世編 山城国乙訓郡大山崎荘(京都府乙訓郡大山崎町) 2019.3	
8. 岩倉寺文書目録 石川県鳳至郡岩倉村(石川県輪島市町野町西時国) 2019.12	
9. 離宮八幡宮文書目録(二)近代・現代編1 山城国乙訓郡大山崎荘(京都府乙訓郡大山崎町) 2020.3	
10. 離宮八幡宮文書目録(三)近代・現代編2 山城国乙訓郡大山崎荘(京都府乙訓郡大山崎町) (予定)	
11. 離宮八幡宮文書目録(四)近代・現代編3 山城国乙訓郡大山崎荘(京都府乙訓郡大山崎町) (予定)	
12. 井池家文書目録(予定)	
神奈川大学日本常民文化研究所所蔵資料目録(神奈川大学日本常民文化研究所編)	A
1. 中村半二郎家文書目録 2011.3	
2. 永長栄三郎家文書目録 2011.3	
3. 二神司朗家文書目録(一)中世・近世編 2012.8	
4. 二神司朗家文書目録(二)近代・現代編1 2013.3	
5. 二神司朗家文書目録(三)近代・現代編2 2016.3	
6. 二神司朗家文書目録(四)近代・現代編3 2016.10	

※入手方法は21ページをご覧ください。



		入手方法	
神奈川大学日本常民文化研究所調査報告(神奈川大学日本常民文化研究所編)			
1. 第10集 十三塚—実測調査・考察編— 1985.10		B	
2. 第11集 仕事着—東日本編— 1986.11			
3. 第12集 仕事着—西日本編— 1987.11			
4. 第13集 民具実測図の方法Ⅰ[農具] 1988.10			
5. 第14集 民具実測図の方法Ⅱ[漁具] 1989.10			
6. 第15集 民具実測図の方法Ⅲ[生活用具] 1990.10			
7. 第16集 運搬具—背負う・提げる・載せる・曳く— 1992.3			
8. 第17集 漁民の活動とその習俗Ⅰ 1993.7			
9. 第18集 漁民の活動とその習俗Ⅱ 1995.6			
10. 第19集 暮らしのなかの技術と芸能—中国江西省と韓国鬱陵島— 2002.11			
11. 第20集 奥会津地方の職人巻物—書承と口承の交錯— 2006.3			
12. 第21集 有明海及び中海の里海としての利用慣行 2014.3			
13. 第22集 アイヌ民族に伝わる漆器の調査研究 —アイヌ民具としての漆器類の基礎的データの収集と分析—[DVD 附属] 2014.7			
14. 第23集 奥能登における真言宗寺院の年中行事を中心とした民俗調査 —町野結衆寺院を事例として— 2015.1			
15. 第24集 明治農具絵図・関連文書群の全国調査 2016.3			
国際常民文化研究機構 共同研究[奨励]調査報告書 (神奈川大学日本常民文化研究所・神奈川大学国際常民文化研究機構編)			
16. 第25集 河原田盛美における本草学的知識から近代勤業的实践の転換に関する研究 [CD 附属] 2017.2		A	
17. 第26集 アチック・ミュージアムの調査活動に関する基礎研究 —「隠岐」調査の検証・分析と民俗学的考察— 2018.2			
18. 第27集 宮城県気仙沼大島における遠洋漁業の歴史的変遷に関する研究 —震災救出資料を中心として—[音声CD 附属] 2019.2			
19. 第28集 昭和戦前期の青年層における民俗学の変容・活用についての研究 2020.2			
20. 第29集 熊野水軍小山家文書の総合的研究[CD 附属] 2021.3			
21. 第30集 ブラジル国サンパウロ州レジストロ植民地における民具からみた日本移民の 生活史の研究 2022.3(予定)			
神奈川大学日本常民文化叢書(神奈川大学日本常民文化研究所編)			
1. 喜界島風土記 拵嘉一郎著 1990.4		B	
2. 鍛冶道具考 吉川金次著 1991.8			
3. 瀬戸内海西部の漁と暮らし 進藤松司著 1994.3			
4. 芦東山日記 橘川俊忠校訂 1998.3			
5. ハワイ日系移民の服飾史 バーバラ・F・川上著 香月洋一郎訳 1998.12			
6. 伊勢道中日記 西和夫編 1999.11			
7. 澁澤敬三先生と私—アチック・ミュージアムの日々 拵嘉一郎著 2007.10			
神奈川大学入門テキストシリーズ 歴史民俗資料入門1(神奈川大学日本常民文化研究所監修) 古文書を学ぶ—市川海老蔵の証文から— 関口博巨著 2021.2			
神奈川大学日本常民文化研究所年報(神奈川大学日本常民文化研究所編)			
1. 年報2014 2016.3	4. 年報2017 2019.3	7. 年報2020 2022.3(予定)	A
2. 年報2015 2017.8	5. 年報2018 2020.2	8. 年報2021 2023.3(予定)	
3. 年報2016 2017.12	6. 年報2019 2021.3		
水産総合研究センター所蔵古文書目録 (独立行政法人水産総合研究センター・神奈川大学日本常民文化研究所編)			
1. 2001年度 初島史料(静岡県熱海市初島)目録 2002.3			F
2. 2002年度 茨城県(霞ヶ浦・北浦周辺地域)関係史料目録 2003.3			
3. 2003年度 浜波太漁業組合文書(千葉県鴨川市)目録 2004.3			
4. 2004年度 千葉県(房総半島沿岸地域)関係史料目録 2005.3			
5. 2005年度 福島県・茨城県・栃木県・千葉県(補遺)関係史料 2006.3			
6. 2006年度 山口県関係史料目録 2007.3			
7. 2008年度 村上茂夫家文書(宮城県気仙沼市)目録 2009.3			



❖ 本研究所は、研究成果を広く社会に伝えることも重要な役割と考え、そのための活動として「常民文化研究講座」「古文書修復実習」「民具を語る」を積極的に開催しています。

常民文化研究講座

「常民文化研究講座」は、1997年以来、日本文化研究の領域を活性化させようとする意図のもと、毎年神奈川大学において開催しています。各回、常民の生活や文化、歴史をテーマとして設定し、講演会・シンポジウムで構成しています。開催時期・内容等は、研究所 Web サイトでご案内していますのでご覧ください。



古文書修復実習



「常民文化研究講座」には、「古文書修復実習」と民具や民俗に関する実習の講座を併設しています。「古文書修復実習」では、基本的な3工程である ① 記録・整理、② 修理(繕い・裏打ち)、③ 復原(化粧裁ち・製本)に加え、④ 襖などの下張り文書の剥離などを行っています。開催時期・内容等は、研究所 Web サイトでご案内しています。

民具を語る

1974年の民具研究講座より併設の民具実測実習、2015年の民具研究ワークショップを経て2016年度から「民具を語る」研究会として年に2～3回開催しています。『民具マンスリー』と有機的に連携し、編集部が企画を行い話題のテーマを実施、研究会報告を掲載しています。2020年度からは動画配信を行い、公式 Web サイトおよび YouTube チャンネルにて公開しています。



このほか、本研究所では、所員が神奈川大学主催の市民講座を担当するほか、調査地の自治体や新聞社などと共催で、講演会やシンポジウムなども企画・実行してきました。今後もこうした機会を大切にしていきたいと思います。

2020年度の講座

第24回 常民文化研究講座

「景観の総合資料学—漁場図を読む2—」

(2020年12月12日／オンライン開催)

○趣旨説明

安室 知

「石丁場 —技術の進歩と景観の変化」(松田睦彦)

「北山林業と民家の庭 —京都市中川地区における文化的景観調査から」(恵谷浩子)

「消費から漁撈を考える —琵琶湖のフナズシをめぐる」(橋本道範)

「エリの造形と分布—「魇税取調帳」から読む歴史」(安室 知)

○総合討論



オンライン開催での会場風景



発表者との記念撮影

第23回 常民文化研究講座

古文書修復実習

(2021年3月8日／オンライン開催)

①現状の記録・解体

②修理(繕い・裏打ち)

③復原(化粧裁ち、製本)

④下張文書の剥離

関口博巨 白水 智 山口悟史

中村 慧 平田茉莉子



裏打ち。和紙を裏から張り補強

第24回 常民文化研究講座

民具を語る6「鳥取県の魚伏籠(ウグイ)」(榎村賢二)

(2021年3月22日／動画配信)

<http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/exhibition/list/210322.html>



魚伏籠をかぶせて魚を捕る様子



榎村賢二氏の解説

● 今後の開催予定・内容、および第1回(1997年6月)からの講座の詳細は、研究所 Web サイト「講座情報一覧」にて公開しています。

<http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/exhibition/list/>



- ◆ 本研究所では、100年におよぶ活動の歴史と今後の展望の紹介や、所蔵資料を展示公開する活動をおこなっています。
- ◆ 博物館としての機能を強化し、研究所全体の博物館相当施設の登録を目指しています。

弁財船実物大部分復元模型 近藤友一郎氏製作

横浜キャンパス3号館地下1階のロビーには、江戸時代から明治時代にかけて荷船として活躍した100石(約15トン)積弁財船帆船帆柱部分の実物大復元模型が展示されています。静岡県船大工近藤友一郎氏の卓越した技術と研究によって、江戸時代の設計図をもとに製作されました。和船模型をとおして海との関わりや重要性を考え、今後は弁財船の帆走写真展示なども展開していきます。



帆船帆柱部分模型
断面前方

- 2019年度まで、神奈川大学日本常民文化研究所展示室、企画展示室(横浜キャンパス3号館1階)にて展示をおこなってきました(2021年度現在休室中)。これまでの内容、今後の予定はWebサイトをご覧ください。

神奈川大学日本常民文化研究所展示室

収蔵資料展「アチックの出版1934～1945」
(2020年4月1日～4月7日)



竹内利美編『小学生の調べた上伊那川島村郷土史』(アチック・ミュージアム彙報第二)1934年刊

企画展

企画展「和船・神奈川湊・横浜港」
(2019年3月26日～2020年4月7日)



右から鎌倉時代の廻船、菱垣廻船、中国船(各10分の1模型)

所蔵資料の古文書修復・民具整理について

3号館の地下2階には、古文書の修復や民具整理を行う設備や、収集した資料を収める収蔵庫があります。

修復室・民具整理室

修復室では、古文書の修復に必要な道具が整い、大学院や学芸員課程の実習、古文書修復実習、民具実測実習などが実施されています。民具整理室では、民俗資料の撮影が行われ、資料のカルテである資料カード作成とデータ化をしています。



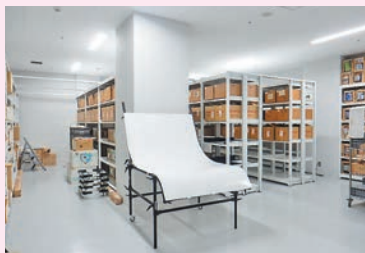
古文書の裏打ち作業の実習授業



小絵馬の撮影



修復室の設備



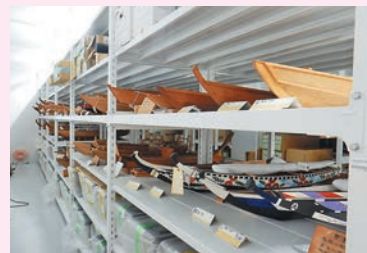
民具整理室

収蔵庫

船大工近藤友一郎氏製作の和船模型や、これまでに収集した民俗資料が収蔵されています。



筭資料(財団常民旧所蔵)



和船模型



❖ 国際常民文化研究機構は、神奈川大学日本常民文化研究所を母体として、2009年度より文部科学省の「共同利用・共同研究拠点」として認定され、「人文学および社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」（2010年度より「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」に変更）に採択されて発足しました。2014年度に引き続き再認定され、第2期として活動を行ってきました。認定は2020年3月31日をもって終了いたしました。

❖ 最新情報、各詳細情報は国際常民文化研究機構 Web サイトをご覧ください。

プロジェクト型共同研究

2021年度現在は公募により採択された2つの共同研究グループによる、成果発表の準備が進められています。

● 共同研究（一般）

1. 海域・海民史の研究

（2018～2020年度）

台湾の「海女（ハイルー）」に関する民族誌的研究
— 東アジア・環太平洋地域の
海女研究構築を目指して —

代表者 藤川美代子
（南山大学／社会人類学）



紙銭を撒いてから海に入る女性
（2018年8月）

● 共同研究（奨励）

（2019～2020年度）

ブラジル国サンパウロ州レジストロ植民地における民具からみた日本移民の生活史の研究

代表者 福澤一興
（レジストロ日伯文化協会／郷土史）



ココア、マンジョウカ等の絞り機の説明を受ける（トメアスー植民地／2020年1月）

共同研究フォーラム

共同研究の成果は、研究期間の最終年にフォーラムにて発表を行い、研究者だけでなく一般にも広く公開しています。

● 第7回「中世熊野の海・武士・城館」（2021年1月23日）
共同研究（奨励）熊野水軍小山家文書の総合的研究
代表者 坂本亮太（和歌山県立博物館／日本中世史）

● 第8回「形を読む—民具の形態学事始め—」（2021年3月6日）
共同研究（一般）民具の機能分析に関する基礎的研究
代表者 神野善治（元武蔵野美術大学／民俗学・民具学）

刊行物

共同研究の成果は、刊行物として発行し、「神奈川大学学術機関リポジトリ」でも公開しています。バックナンバーは21ページ、および国際常民文化研究機構 Web サイトをご覧ください。

● 国際常民文化研究叢書 14

民具の機能分析に関する基礎的研究 [付録CD付]（2021年3月）

● 神奈川大学日本常民文化研究所調査報告 第29集

（国際常民文化研究機構 共同研究 [奨励] 調査報告書）
熊野水軍小山家文書の総合的研究 [CD 附属]（2021年3月）

共同研究一覧

第1期（2009～2013年度）

1. 海域・海民史の総合的研究

漁場利用の比較研究

日本列島周辺海域における水産史に関する総合的研究

環太平洋海域における伝統的造船技術の比較研究

2. 民具資料の文化資源化

民具の名称に関する基礎的研究

東アジアの民具・物質文化からみた比較文化史

3. 非文字資料（画像・身体技法・景観）の体系化

アジア祭祀芸能の比較研究

4. 映像資料の文化資源化

アチックフィルム・写真にみるモノ・身体・表象

5. 常民文化資料共有化システムの開発

第二次大戦中および占領期の民族学・文化人類学

第2期（2014～2020年度）

共同研究（一般）

1. 海域・海民史の研究

東アジアの伝統的木造船建造および操船技術の比較研究

2. 民具資料の研究

民具の機能分析に関する基礎的研究

3. 日本常民文化研究所所蔵資料に関する研究 採択なし

4. 常民文化に関する研究

戦前の渋沢水産史研究室の活動に関する調査研究

共同研究（奨励）

・ 河原田盛美における本草学的知識から近代勧業の実践の転換に関する研究

・ アチック・ミュージアムの調査活動に関する基礎研究

— 「隠岐」調査の検証・分析と民俗学的考察 —

・ 宮城県気仙沼大島における遠洋漁業の歴史的変遷に関する研究

— 震災救出資料を中心として —

・ 昭和戦前期の青年層における民俗学の受容・活用についての研究

・ 熊野水軍小山家文書の総合的研究

● なお、本機構は、2009年度より共同研究拠点として、プロジェクト型共同研究を中心とする活動を推進してきましたが、2021年度をもって終了いたします。その事業の一部は、日本常民文化研究所に引き継がれます。

利用案内



研究所の図書および所蔵資料は研究目的での閲覧ができます。整理状況・閲覧席の都合等により、日時・利用内容等の調整をいたしますので、ご希望される学外研究者の方は事前の電話連絡をお願いします。TEL 045-481-5661(代)

- 開室時間———9:00～16:00
- 閉室日———土曜日、日曜日、国民の祝日、本学が定めた一斉休暇及びその他臨時に定めた日
※臨時に閉室または開室時間を変更する場合があります。
- 閲覧座席数———5席
- 所蔵資料の利用———所蔵資料についてはWebサイトにて資料リストを公開しています。「神奈川大学デジタルアーカイブ」でも検索可能です。ただし、利用できる資料については研究所へお問い合わせください。
- 図書の利用———神奈川大学図書館OPAC(<https://ufinity.kanagawa-u.ac.jp/>)にて書誌検索ができます。
※各文庫には利用の制限がありますので、あらかじめご了承ください。

※研究所のご利用につきましては、本研究所Webサイトのトピックス欄にて最新情報をご確認ください。

〈横浜キャンパスへのアクセス〉

- 東急東横線「白楽駅」または「東白楽駅」下車 徒歩13分
※駐車場がありませんので、自家用車の利用はご遠慮ください。
- 横浜駅西口バスターミナルから横浜市営バスを利用
 - 1番乗場(36系統) 菅田町または緑車庫前行
「神奈川大学入口」または「六角橋西町」下車
 - 1番乗場(82系統) 八反橋または神大寺入口行
「神奈川大学入口」または「六角橋西町」下車



公式Facebook・Twitter・YouTube開設

- 日本常民文化研究所、非文字資料研究センター、国際常民文化研究機構の公式アカウントを開設しました。講座、研究会開催情報、調査実施報告や刊行物発行など、研究活動の最新情報をお知らせします。
- 日本常民文化研究所YouTubeチャンネルでは、「民具を語る」などの動画配信を行っています。



Facebook



Twitter



YouTube

最新情報は公式Webサイトへ

- 本誌掲載の情報は2021年6月時点のものです。最新の情報は研究所Webサイトにて随時掲載しています。リニューアルした「神奈川大学デジタルアーカイブ」では、所蔵資料の検索が可能です。
- 神奈川大学日本常民文化研究所Webサイト
<http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/>
- 神奈川大学デジタルアーカイブ
<https://www.kanagawa-u.ac.jp/research/digitalarchive/>



日本常民文化研究所Web



神奈川大学デジタルアーカイブ

- また、本研究所の1年間の研究活動報告をまとめた『神奈川大学日本常民文化研究所年報』も合わせてご覧ください。

学内マップ



神奈川大学日本常民文化研究所

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 (神奈川大学横浜キャンパス9号館1階)
TEL 045-481-5661(大学代表) FAX 045-413-4151(直通)
<http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/>

非文字資料研究センター <http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/>

国際常民文化研究機構 <http://icfcs.kanagawa-u.ac.jp/>

2021年7月

